

イノシシの管理の基本と調査設計・計画策定の考え方

株式会社 野生動物保護管理事務所

平山 寛之

講演要旨

イノシシは、深刻な農業被害を与える野生動物の代表である。これに加えて、近年は市街地への出没、それに伴う人身被害も全国で生じており、問題が多様化している。本講義では、こうした現状を踏まえ、効果的な被害対策を実施するための調査設計の考え方、調査結果にもとづく計画策定の基本的な考え方について、事例を交えて説明する。

■被害や生息状況の現状

イノシシは、深刻な農業被害を及ぼし、近年の全国統計ではシカについて2位の被害額をあげる獣種である。これに加えて、近年は全国各地で市街地への出没や人身被害も生じており、死亡事故など極めて深刻な事態も起きている。こうした被害を軽減し、市街地への出没を抑えるためには、従来から推進されてきた防護柵等による被害防除に加え、広域での生息密度低下を目指す必要がある。そのためには、捕獲による個体数の削減が重要であり、科学的な根拠にもとづいた捕獲目標の設定が必要である。

■モニタリングの設計

広域での目標設定のためには、広域でのモニタリングが必要である。イノシシを含めて野生動物の調査手法は多種多様であるが、広域モニタリングに合うのは低コストで広範囲をカバーできるものとなる。既存の手法から近年開発が進んだものまで、有用であると考えられる手法を解説する。また、解説に際しては、モニタリングによって把握すべきものが生息密度か、被害状況に分けて解説を行う。

■計画策定の考え方

都道府県は広域モニタリングによって得られた結果をもとに、計画を作成する必要がある。この際、重要となるのが目標設定であり、階層ベイズモデルによる個体数推定の活用を一例として紹介する。また、市町村は都道府県の計画と整合性をもって計画を作成する必要がある。これら都道府県と市町村の役割りの違いも踏まえて、計画に記載すべき内容を実例も交えながら解説する。